

図画工作科学学習指導案

指導者 藤井 知子

- 1 学 年 第6学年 16名
- 2 場 所 奥田元宋・小由女美術館 企画展示室（近代日本水墨画名品展）
- 3 題材名 墨 de 和っとカラー？ 【領域】「みる」「かく」

4 題材について 題材観

本題材は、学習指導要領に示された次の目標と指導内容を受けて設定した。

	第5学年及び第6学年の目標	第5学年及び第6学年の指導内容
A 表現	(2) 材料などの特徴をとらえ、想像力を働かせて発想し、主題の表し方を構想するとともに、様々な表し方を工夫し、造形的な能力を高めるようにする。	(2)イ 形や色、材料の特徴や構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、表し方を構想して表すこと。 (2)ウ 表したいことに合わせて 材料や用具の特徴を生かして使うとともに、表現に適した方法などを組み合わせて表すこと。
B 鑑賞	(3) 親しみのある作品などから、よさや美しさを感じ取るとともに、それらを大切にするようにする。	(1)ア 自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、暮らしの中の作品などを鑑賞して、よさや美しさを感じとること。 (1)イ 感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、表し方の変化、表現の意図や特徴などをとらえること。
評価	ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。 イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。	

本題材は、水墨画を鑑賞して親しみ、自分でも描いてみながら、そのよさを味わおうというものである。水墨画は中国から伝わってきた描法であるが、我が国の伝統的な絵画の一つであり、日本画の中でも身近で親しみやすいものである。

今回、奥田元宋・小由女美術館で催される「近代日本水墨画名品展」を鑑賞することで、水墨画に対する関心や知識を深めるとともに、美術館がより身近で楽しい存在になるようにもしたいと考えた。また美術館での感動がより深い表現活動に結びつくように、鑑賞と表現とを一体的に扱うことで、鑑賞活動そのものを深めることに適した題材といえる。

日本美術のよさを味わい、さらに実際に描く体験を通して自分らしい見方や感じ方を広げ、白黒の世界に対する感覚や感性を高めることができるのにふさわしい題材である。

本題材で児童に「つけたい力」は次の通りである。

- ・水墨画に関心をもち、表現のよさや面白さをとらえようとする。【感じる力】
- ・墨のもつ特徴や技法を生かして、効果的な描き方を模索する。【考える力】
- ・墨の濃淡の面白さ、濃い墨の強さ、薄い墨のやわらかさ、にじみやかすれなど、墨のよさを効果的に表す。【かく力】
- ・先人の作品や友だちの作品について話し合い、特徴をとらえたりよさや美しさを見付ける。【みる力】

児童の実態

質問紙によって、図画工作に対する意識を調査した。

(16人実施)

Aよく当てはまる　　Bまあまあ当てはまる　　Cあまり当てはまらない　　D当てはまらない						
調 査 項 目		(人)	A	B	C	D
ア 図画工作は好き			7	7	2	0
イ 絵を描くとき アイデアがうかぶ			8	5	3	0
ウ 鑑賞は好き			9	5	1	0
エ 自分でも 気に入った作品ができる			8	7	1	0
オ 作っている途中友だちの作品をみるのが好き			9	6	1	0
カ 友だちのまねはよくして いいところを取り入れている			8	6	2	0
キ 出来上がり後、みんなで見合うのは好き			4	9	2	1

このアンケート結果から、学年当初は3分の1程度の児童は図画工作科への取りつき難さをもっていたが、1学期の学習を終えた時点では、5分の1以下に減ってきた。これまでに児童は、友だちの作品を見合いながら参考にしたり、完成作品の鑑賞会も楽しんだりしてきたので「ルックルックタイム」は大事にしていきたい。

児童のほとんどは、墨は文字を書くだけのものと思いがちであったが、水墨画が室町時代に雪舟によって大成したのだということを社会科の歴史学習で学んだ後は、墨を使って描くということについての視野が広がってきている。1学期の妖怪画の学習では、本題材を見据えて墨を使用して描かせたが、この段階では、墨で輪郭をとるぐらいにしか活用しておらず、スケッチペンの延長止まりだった。毛筆小筆はほぐさず使ったので、硬い表現に終わった作品もあった。中に面相筆を持っていた児童の作品の味わいが、他の児童の作品と違うのを鑑賞会で感じた児童がおり、絵を描くときに生かせる毛筆のやわらかさに気づいている児童がいる。素材の工夫もできそうな様子である。

指導観

指導にあたっては、次のような手立てを講じていきたい。

〔感じる力を育てる手立て〕

雪舟は社会科の教科書では大きく取り上げられているが、その作品の良さはさっと見ただけでは分かりにくい。まず「破墨山水図」を見せて「何をどう描いているのかな・・・？」と初発のうけとめからスタートさせる。それを対話型の鑑賞法でじっくり見させていくことで白と黒の世界が生み出す奥深い、自分にしか見えてこない感じ取り方で色を想像していく。水墨画は見る人によって色を感じ取ることができるため、墨は無限の色を持っていることに触れさせたい。

〔考える力を育てる手立て〕

妖怪画を墨で輪郭をとり、絵の具で着色したという経験と比べ、「墨で色をつけるよ。」という課題に対して考えさせる。

どんな筆使いや墨作りが効果をかもし出すかいろいろ試してみさせる。大筆・小筆・面相筆で試行錯誤をしっかりとさせていきたい。

何でもよいから描くというのではなく、白黒コピーものの模写か、あるいは同一題材（山・鳥・竹・松かさ・鯉等）を課題として与えるなどして、児童の様子に合わせて、美術館で鑑賞する際の自分の作品を制作させたい。

〔かく力を育てる手立て〕

試行錯誤の中での発見を交流したりすることで、行き詰まった児童に配慮しながら、鉤勒法（こうろくほう）、没骨法（もっこつほう）、直筆、側筆、渴筆などの技法も教えていく。薄墨・濃い墨の作り方を妖怪画で扱ったミニパレットも使用しながら指導したり、筆や筆以外の描画材料の扱い方を工夫したりして、墨で描く楽しさ、墨の濃淡の面白さ、濃い墨の強さ、薄い墨のやわらかさ、にじみやかすれの美しさなどを味わわせてみる。

〔みる力を育てる手立て〕

自分で描いたものを本時では美術館に持参し、似ている描き方やもう少しこうすればよかったなど、比べ

ながら鑑賞させる。美術館でのたくさんの水墨名画の中からみせていくものは、持ち込むこととなる児童作品から、学芸員さんと連携の中でしばりこむ。また、本時の授業にもT1・T2の形で学芸員さんに協力をお願いする。

時期を同じくして、国語教材での「絵を読む」学習とも関連付けながら進めていきたい。

5 題材の目標

- 水墨画の表現のよさや面白さに興味・関心をもち、自分でも描いてみようとする。
- 水墨画の特徴を生かして自分なりの想像力を働かせて思いついたり試したりする。
- 墨の濃淡の美しさ、墨を薄めない強さ、薄い墨のにじみの美しさ、かすれなど、墨のよさを効果的に表す。
- 先人の作品や友だちの作品について話し合い、特徴をとらえたり、よさや美しさを見つけたりする。

6 題材の評価規準

ア 造形への関心・意欲・態度（感じる力）	イ 発想や構想の能力（考える力）	ウ 創造的な技能（かく力）	エ 鑑賞の能力（みる力）
水墨画の表現のよさや面白さを進んで感じ取ろうとしている。 自分でも進んで水墨画を描こうとしている。	墨で色がぬれる方法について、試行錯誤しながら考えている。	いろいろな技法を試しながら水墨画を描いている。	自分でも描いてみた体験を生かしながら、先人の作品のよさやおもしろさを味わっている。 友だちの作品をみて表現や色合いの工夫を感じ取っている。

7 指導と評価の計画（全7時間）

次	学習内容（時数）	評価					
		ア	イ	ウ	エ	評価規準	評価方法
一	○室町文化で出会った雪舟の水墨画「破墨山水図」を鑑賞する。（1）					・対話型にしっかり参加し感じ取ったことを伝え合う。	ワークシート 発表
二	○いろいろな技法を試しながら墨で描いてみる。（2）					・墨で色を表現する方法について試行錯誤して考えている。	行動観察 作品
三	○美術館で先人の水墨画を鑑賞する。（1）【本時】		○			・自分の作品と比べながら、水墨画のよさや面白さをとらえている。 ・日頃味わえない名画(水墨画)のよさや美しさを進んで感じ取ろうとしている。	ワークシート 発言 行動観察
四	○自分の描きたいものを水墨画作品に仕上げる。（2）					・いろいろな技法を試しながら水墨画を描いている。	作品
五	○鑑賞会を開く。（1）					・友だちの作品をみて表現や色合いの工夫を感じ取っている。	ワークシート 発表

8 本時の展開

（1）本時の目標

- 自分の作品と比べながら水墨画のよさや美しさをとらえる。

（2）本時の評価規準

- 自分の作品と比べながら水墨画のよさや美しさをとらえている。 【鑑賞の能力】
- 日頃味わえない名画(水墨画)のよさや美しさを進んで感じ取ろうとしている。 【関心・意欲・態度】

（3）準備物

〔児童〕・自分の作品(スケッチブック) , 筆記具, 大筆

(4) 学習展開

学習活動	指導上の留意点 (は支援を要する児童への手立て)	評価規準 (評価方法)
1 本時の課題を確認する。		
水墨画のよさや美しさを味わおう		
2 もって来た自分の絵と比べられる作品をみつけて鑑賞する。	・自分の作品と比べて, 違いや似たような描き方を手がかりに鑑賞させる。 ・からす, 黒鯉, 竹, 松, 山のある風景を描いて来ているので, それと見比べられる展示作品をみつけて, ペアで気付きを語り合いシートにメモをさせる。 【児童の意欲を高める言葉がけ】 「自分のほ。○. だけど... という言い方はいいね。」 「どこのどんな感じが自分と似ていたり違っていたりしておもしろいかな。」	・日頃味わえない名画 (水墨画) のよさや美しさを進んで感じとうとしている。 【関心・意欲・態度】 (語り合いの内容・ワークシート)
3 全員で展示水墨画を鑑賞する。	・み比べるとよいと思われる展示作品をすすめるようにする。 ・手元には自分の作品がみえるようにして鑑賞させる。 富岡鉄斎「普陀落迦山」 横山大観「木立に白鷺」 (山や岩の形・波の表現の力強さや筆のスピード感が味わえる。人も建物も自然も表されている作品である。) にじみの世界が味わえる。壮大なスケールや遠近感の中の緻密さが表れている作品である。) 【児童の意欲を高める言葉がけ】 「自分の山と比べてみて同じところ違うところをみつけて話せるとすごくわかりやすくていいね。」 「何かいる？」 「何をしている？」 「何か聞こえてきそうかな？」 「時間帯はいつごろの感じがする？」 「天候は？」 「筆をどう動かしたのだろう。」	・自分の作品と比べながら水墨画のよさや面白さをとらえている。 【鑑賞の能力】 (発表内容・ワークシート)
(対話型のあと学芸員さんのまとめを聞く) ○何がみえますか。 ○それはなぜそう思いましたか。 ○どうしてこれを描いたのでしょうか。		
4 本時の学習をふり返る。	・次時に向けて自分でテーマを持って水墨画を描きたいという意欲を持たせる。	